

## 不登校傾向の生徒への支援について

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、自分の思いを伝えることが苦手であり、集団生活に不安を感じ、校内の別室や教育支援センターを利用している。また、仲の良い友達とは、自宅での出来事などを話したり、思いを伝えたりすることができる。

### 具体的な取組

#### ○魅力ある学校づくりの推進

不登校対応巡回教員が作成した、生徒と教員が対象のアンケートを年3回実施し、生徒の様子や学校生活への思いを把握した。また、生徒の学校が楽しい理由や教員が行っている不登校の未然防止策などを共有・分析し、生徒にとって魅力ある学校について検討している。

#### ○居場所づくり

校内別室に登校した際は、本を読んだり、学習したり、別室に通う生徒が相互に話をしたりすることができる雰囲気づくりをする。また、登校したくなる。安心して過ごせる場となるよう別室の在り方や利用の仕方を共有した。

#### ○校内委員会等の実施

校内委員会を毎週開催している。管理職、生活指導主任、養護教諭、学年主任、特別支援教室専門員、SCなどが情報共有し、生徒にとっての最善策や対応の在り方を検討している。また、必要に応じて、SSWも参加し、関係機関と連携して、生徒の家庭についても支援している。

#### ○教育支援センターとの連携

不登校対応巡回教員は、教科担任が作成した課題を生徒と一緒に学ぶなど学習支援を行っている。また、不登校対応巡回教員は、当該生徒や教育支援センターの担当者とそこでの様子について話し合い、連携した学習支援を行っている。



### 成果

不登校対応巡回教員が家庭訪問や別室の見守りを行うことで、支援の充実を図ることができた。

不登校対応巡回教員が教育支援センターでの生徒の様子などを把握し、きめ細かな支援につながった。

### 課題

不登校生徒の多くが、授業に出られず、学習が遅れ、学習意欲の低下や不安につながっているため、学習支援の充実が課題である。

## 生徒との信頼関係の構築と入試に向けた支援について

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、学校生活になじめず、不登校になった。同級生との関わりは少ない。感覚過敏のため標準服が苦手であり、ジャージで登校をしている。10月からは、学年教員とWEB上での連絡が取れるようになった。志望校が定まり、不登校対応巡回教員と入試の対策を進めている。少しずつ情緒が安定し、週2～3日の登校ができるようになった。

### 具体的な取組

#### ○魅力ある学校づくりの推進

年3回、全生徒と全教員を対象に生活意識調査を実施し、生徒が学校生活をどう感じているかを把握した。生徒の学校が楽しい理由や各教員が不登校未然防止として行っていることを共有し、全ての生徒にとって魅力ある学校とは何かを考え、授業の充実等を目指した。

#### ○デジタル機器を活用した支援

WEB上で当該生徒と学年主任、担任、不登校対応巡回教員がチャットを始め、それが定期的な登校につながった。登校時に、不登校対応巡回教員と高校入試の作文練習や面接練習をしている。



#### ○OSC、SSWや関係諸機関等との連携

管理職、学年主任、生活指導主任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、特別支援教室教員、SC、SSW、不登校対応巡回教員で情報共有して支援策を考えている。週1回、巡回教員が教育支援センターに行き、当該生徒や指導員と情報共有している。

#### ○校内別室による支援

不登校対応巡回教員が巡回した時は、担任と相談しながら、卒業後の進路に向けての学習を行った。次回の登校につながるように、当該生徒と相談しながら次回の内容を決めた。また、定期的に担任又は不登校対応巡回教員が保護者に電話連絡し、信頼関係の構築を心がけた。

### 成果

WEB上でチャットを始める等、デジタル機器を活用した支援が効果的であった。不登校対応巡回教員の巡回日に合わせた登校を促し、登校のきっかけになった。高校入試に向けて、不登校対応巡回教員との信頼関係が構築され、登校日数が増えた。

### 課題

不登校対応巡回教員は週1日の巡回のため、当該生徒の対応ができない日があり、毎日の継続登校には工夫が必要である。

## 不登校対応巡回指導教員による生徒支援について

### 不登校生徒の状況

対象生徒は教室には入れないが、校内別室には登校できる生徒である。一斉授業では学習についていくことができず、自己肯定感や学習意欲が低い。相手のことを考えすぎてしまい、言われたことに対して「ノー」と言うことができない。

### 具体的な取組

#### ○魅力ある学校づくりの推進

年3回、生徒と教員を対象にアンケートを実施し、生徒が学校生活をどう感じているかを把握した。生徒の学校が楽しい理由や、各教員が不登校の未然防止として行っていることを共有し、本校の生徒にとっての魅力ある学校とは何かを考え、全生徒が楽しいと思う授業等を目指すことにした。

#### ○当該生徒・保護者との信頼関係の構築

対話を通して当該生徒との信頼関係の構築を心がけた。また、担任と連携して巡回教員が保護者に電話連絡するなどコミュニケーションを図った。当該生徒や保護者から要望があった時は、SC面談に同席した。



#### ○SC、SSWや関係機関等との連携

管理職、学年主任、生活指導主任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員、SC、SSW、不登校対応巡回教員等で情報共有して支援策を考えている。週1回、不登校対応巡回教員が教育支援センターに行き、生徒たちや指導員とコミュニケーションを図っている。

#### ○校内別室による支援

不登校対応巡回教員が巡回した時に、英語と数学の課題を中心に学習支援を行った。テストの結果に結び付くよう工夫して、生徒の自己肯定感を高めるようにした。高校入試に向けて繰り返し面接練習を行うことで、本番に自信をもって臨めるようにした。

### 成果

信頼関係を構築できたことで、当該生徒が自分の意思を担任、校内別室指導支援員、不登校対応巡回教員に伝えられるようになった。また、個別の学習支援や面接練習を通して、当該生徒の自己肯定感を高めることができ、学習意欲の向上にもつながった。

### 課題

不登校対応巡回教員は週1日の巡回であり、情報共有を十分に行うことが難しい。校内体制の整備が必要である。

## 校内体制の整備による不登校生徒との信頼関係の構築と関係機関との連携



### 不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生 3 学期に学校に登校できなくなった。他者とのコミュニケーションが苦手で、学習に対しても意欲的に取り組む姿は見られなかった。現在は一日の大部分を自宅の自分の部屋で過ごしている。学校からフリースクールなどを案内したが、当該生徒は、その必要性を感じていない。

### 具体的な取組

#### ○魅力ある学校づくりの推進

年 3 回、生徒と教員を対象にアンケートを実施し、生徒が学校生活をどう感じているかを把握した。生徒の学校が楽しい理由や各教員が不登校の未然防止として行っていることも共有し、本校の生徒にとっての魅力ある学校とは何かを考え、生徒会活動の充実等を目指した。

#### ○週 1 回の家庭訪問

担任と連携を取り、週 1 回、巡回教員が家庭訪問し、別室の写真を掲載してある封筒を使用し、配布物を届けている。当該生徒とは会えていないが、定期的に家庭訪問を続けることで、保護者間との信頼関係を築くことができた。

#### ○特別支援校内委員会の実施

週 1 回、校内委員会を開催している。管理職、担任、学年主任、生活指導主任、養護教諭、特別支援教室専門員、特別支援教室教員、特別支援教育コーディネーター、S C、不登校対応巡回教員で情報共有しながら当該生徒にとっての最善策を考え、生徒や家庭と連絡している。

#### ○適応指導教室や S C との連携

週 1 回、不登校対応巡回教員が教育支援センターに行き、指導員や生徒と話す機会を設けている。対象生徒の保護者と連絡を取り、教育支援センターや S C とも情報共有した。学校からだけでなく、教育支援センターや S C から家庭連絡するようにし、教育センターへの見学を促した。

### 成果

当該生徒の外出につながるように、家庭訪問や電話連絡など継続的な支援を続けることができた。こうした支援が、保護者との信頼関係の構築につながった。

### 課題

進路や将来に向けての具体的な手だてを保護者と共有すること。